

II

内部質保証と評価

淑徳大学の内部質保証と自己点検・ 評価について	43
成果指標	44
外部評価	62

淑徳大学の内部質保証と自己点検・評価について

淑徳大学は、内部質保証及び自己点検・評価について、「淑徳大学 自己点検・評価委の指針(以下「指針」)」を2020年3月に策定しました。この指針に基づき、2020年度より大学の内部質保証システムを見直し、図に示すように自己点検・評価を実施しています。

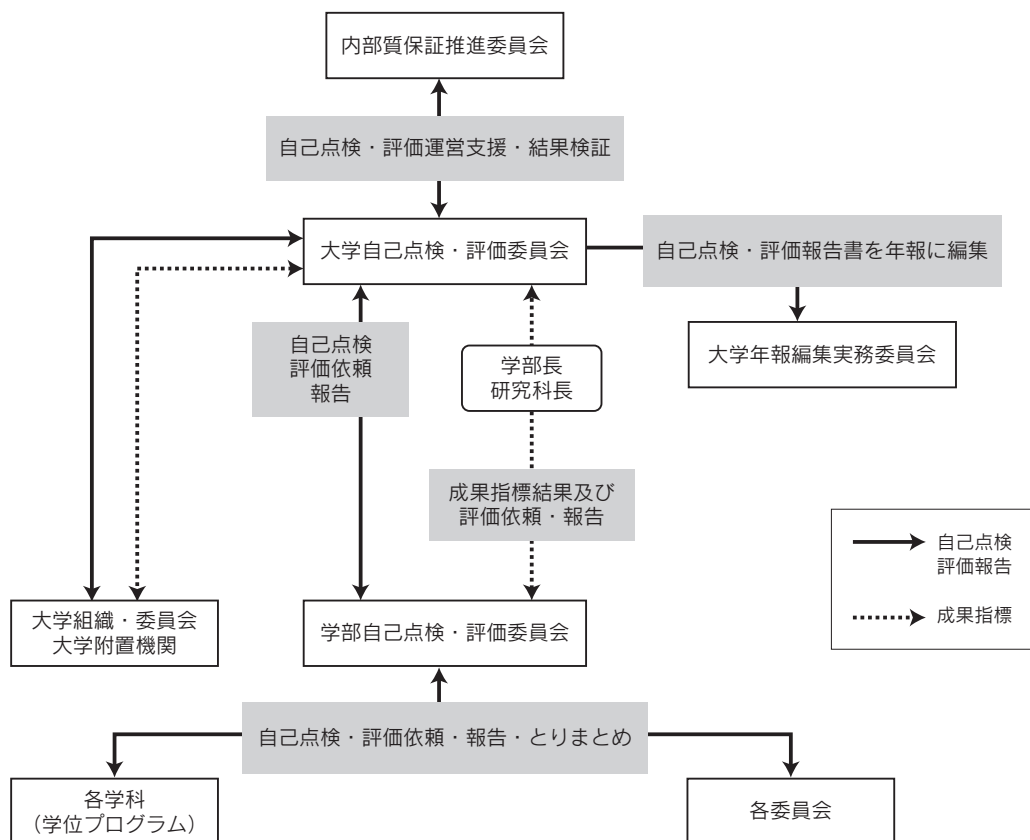


図 淑徳大学の自己点検・評価

また自己点検・評価は、3つの方針や、大学基準ごとの方針及びFD及びSDの方針を実現し、大学としての質を本学自らが保証するために行います。また3年後（2022年度末）に達成すべき定量的及び定性的な指標として成果指標が各組織に設定され、自己点検・評価と成果指標が連携して、自己点検・評価システムを構成しています。

本学の自己点検・評価は、大学基準（領域）ごとに自己点検・評価のサイクルを定めています。各部局や委員会では自分達が主に該当する大学基準の自己点検・評価サイクルにあわせて、自己点検・評価を行います。また自己点検・評価を行わない年度は、モニタリングを行うこととなります。

成 果 指 標

教育・研究・管理運営等に関する目標・成果指標

大学基準	実現目標	成果指標			備考	
		No	種類	成果指標・データ定義		3年後の指標
1. 理念・目的	淑徳大学の理解 淑徳大学の建学の精神と大学の歩みを理解し、自分の生き方を探求していく機会を提供する。	1-11	行動	<ul style="list-style-type: none"> 自校教育プログラムの実施と参加勸奨 	<ul style="list-style-type: none"> 自校教育プログラムの実施と参加勸奨を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 宗教行事、セミナーなどを、各キャンパスの実態に応じて設定する。
	内部質保証システムの確立の為、PDCAサイクルを適切に行い、不断的に教育改善や教育改革に取り組む。	2-11	行動	<ul style="list-style-type: none"> 各部署や委員会が、3つの方針や大学基準ごとの方針及び昨年度の課題に基づいたPDCA(点検評価)が適切かどうかの評価を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 各部署や委員会が行った自己点検評価の点検評価を実施する 	
3. 教育研究組織	――	――	――	――	――	――
4. 教育課程・学習成果	①基盤教育を検討・整備し、充実させる。	4-11	行動	<ul style="list-style-type: none"> 本学の基盤として学士力の要素を包摂する基盤教育の構築を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 基盤教育の構成やカリキュラム、単位数の見直し、教育内容や教育方法、教育評価の基準と方法について検討する 	
	②学生の学習を促進するための取り組みを充実する。	4-21	結果	<ul style="list-style-type: none"> 講義演習科目のアクティブ・ラーニングの実施 講義科目及び演習科目のシラバスの授業形態(あるいは授業回)にいずれかを含むものをALと定義 「PBL、反転授業、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク」 	<ul style="list-style-type: none"> アクティブ・ラーニングの導入率80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラムごとに行動計画を策定し、取組を行う。
		4-22	結果	<ul style="list-style-type: none"> 学生の授業外学習時間の増加 学修行動調査の設問「授業課題、準備学習の時間の結果」を用いるまた数値は学部全体(調査実施全学年)を用いる 	<ul style="list-style-type: none"> [授業時間以外の学習時間]週10時間以上：15%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラムごとに行動計画を策定し、取組を行う。

組織レベル	取組主体		2020年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
キャンパス	千葉	総務部 教務(教学)委員会 教育向上委員会 初年次教育委員会	大学共通科目として「共生論」を開講している。 宗教行事への学生参加については、新型コロナウイルス感染拡大防止に係る対応として、代表焼香を行う方のみとした。	可
	千葉第二	自校教育推進委員	新任本務教員、非常勤教員、本務職員に自校教育ガイドブックを配布し、自校教育の浸透を図ったが説明していない。 宗教行事は、降誕会は「お釈迦様に甘茶をかける体験」として実施。盂蘭盆会、成道会は、教職員を対象に実施した。	良
	埼玉	教務委員会	前期は新型コロナの感染拡大に伴い、宗教行事の実施を見送ったものの、後期の成道会は対面と遠隔のハイブリッド型で実施。計292名の参加(参加率82%)であった。	良
	東京	自校教育委員会	新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、未実施	※
学部	総合福祉	学部自己点検評価委員会		
	コミュニティ政策	学部自己点検評価委員会	2020年度から新たな自己点検・評価活動を行っている。	良
	看護栄養	学部自己点検評価委員会	各委員会等による自己点検・評価結果の適切性について、評価を実施し、いずれの委員会等も適切にPDCAを実施していることを確認した。	良
	経営	学部自己点検評価委員会	3つの方針について、PDCA(点検評価)が適切かどうかの評価を学部ワーキンググループで実施した。	良
	教育	学部自己点検評価委員会	3つの方針について、PDCA(点検評価)が適切かどうかの評価を3月の学科会で実施した。	良
	人文	学部自己点検評価委員会	予定していた学科・委員会等の「計画」「中間振り返り」年度末「報告」の自己点検・評価を実施することができた。	優
—	—	—	—	—
大学	高等教育研究開発センター		英語のプレイズメントテストの実施計画と2021年3～4月に実施。	可
学部	総合福祉	学部教育向上委員会	59%	C
	コミュニティ政策	学部教育向上委員会	22.6%(コロナ感染防止のため、遠隔授業が実施された。したがって、授業アンケートの項目「3. 双方向型の授業は行われましたか」に対する肯定的回答(大いにそう思う)の数値を使用した。)	※
	看護栄養	教務委員会	導入率89% シラバス作成時に、講義演習科目にアクティブラーニングの導入を明記している。	A
	経営	教務委員会	94.8%	S
	教育	教学委員会	93.9%	S
	人文	教学委員会	感染症対策により通常期とは異なるため不明(参考:2020年度シラバス授業形態に「アクティブラーニング」と表記されている科目49.3%(141/286科目))	※
学部	総合福祉	教務委員会	17.6%	S
	コミュニティ政策	教学委員会	11.2%	B
	看護栄養	教務委員会	17.3% 遠隔授業の増加もあり、授業外学修時間は増加した。	A
	経営	教務委員会	6.0%	D
	教育	教務委員会	8.3%	C
	人文	教学委員会	13.1% シラバスチェックにより、適切な事前事後学習を指示しているか確認した。	A

*達成度の評価方法は結果目標はS～D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

大学基準	実現目標	成果指標			備考	
		No	種類	成果指標・データ定義		3年後の指標
4. 教育課程・学習成果	③学習計画とそれに基づいた授業展開の効果を検証する。	4-31	行動	<ul style="list-style-type: none"> 学生授業アンケートのシラバス忠実度と授業満足度の検証の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの検証の実施を委員会内で行う 	
		4-32	結果	<ul style="list-style-type: none"> 学生授業アンケートにおける到達目標の達成度 授業アンケート設問Ⅲ-1、肯定的回答は「大いに思う」とする 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的回答50%以上 	
	④教員のチームによる教育目標への取組みを行う。	4-41	行動	<ul style="list-style-type: none"> 教員のチームによる科目間連携を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 科目間連携の協議を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 科目間連携とは、履修体系図で示された各体系の科目間で目標・内容・評価等を連携する事を指す。 科目間連携の協議は学位プログラム内や同一科目複数開講でも行う。
	⑤カリキュラム・ポリシーやアセスメントポリシーに基づき、学修成果の実情把握と指標の開発によって教育成果を推進する。	4-51	行動	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラムごとの学修成果における測定指標・取組の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 学修成果を包括的に把握する指標や取組みの検討をする(DPやCPを踏まえたルーブリックの開発、ポートフォリオの活用や評価方法の開発など) 	

組織レベル	取組主体		2020年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
学部	総合福祉	学部教育向上委員会	委員会内での検証は行わなかった。授業アンケートの結果は、シラバス忠実度92.4%、授業満足度87.6%であった。	可
	コミュニティ政策	学部教育向上委員会	2020年度の「前学期 授業アンケート」の結果 ●シラバス忠実度の肯定的回答(大いに思う) 28.2% ●授業満足度の肯定的回答(大いに思う) 34.5% 「後学期 授業アンケート」の結果は、現在、集計中であり、2021年度中に委員会内で検証する。	不可
	看護栄養	学部教育向上委員会	シラバス忠実度は94.7%、満足度は91.4%であった(前学期)。アンケート結果のうち一部の項目は委員会内での検証に至っていない。	可
	経営	教育向上委員会	学生授業アンケートの結果について確認を実施した。	良
	教育	教育向上委員会	学生授業アンケートの結果について確認を実施した。	良
	人文	教育向上委員会	授業アンケートの検証の実施を委員会内で行った	良
学部	総合福祉	学部教育向上委員会	前期21.1% 後期27.5%	C
	コミュニティ政策	学部教育向上委員会	前期20.5% 後期23.4%	D
	看護栄養	学部教育向上委員会	コロナ禍での遠隔授業により到達度は前学期20.3%、後学期25.3%と減少。	D
	経営	教育向上委員会	前期23.6% 後期27.5%	D
	教育	教育向上委員会	前期21.7% 後期27.0%	A
	人文	教育向上委員会	前期21.5%/後期25.8% 前年度と比べて肯定的回答率がかなり低かった。これは新型コロナウイルスの影響により、当初予定していた授業ができなかったことが関係すると思われる。だが、後期は前期よりも肯定的回答が増えており、授業方法に関する臨時FD研修をおこなった成果も反映されていると思われる。	C
学部	総合福祉	学部教育向上委員会	実習科目、演習科目について、各実習委員会での議論を通じて連携を実現している。	可
	コミュニティ政策	学部教育向上委員会	2019年度から実践科目における科目間連携が開始されている。今後は、高等教育開発センターとともに、同一科目複数開講科目でのシラバスや成績評価基準の調整について協議する。これまでも同一科目複数開講科目や関連科目を担当する教員間で随時連携がはかられてきたが、組織的な取り組みとは言えない。今後は、高等教育開発センターとともに、同一科目複数開講科目でのシラバスや成績評価の基準を調整し、全体への取り組みを促していく。	不可
	看護栄養	看護学科・栄養学科	(看護学科) 科目間連携に関する意識昂揚を目的としたFD研修会を実施し、シラバスにも記載することにした。 (栄養学科) 学科履修体系図によりプロジェクトチームの立ち上げと学科FD研修を実施し、シラバスにも記載することにした。	良
	経営	教務委員会	科目間連携の前段階に相当する、オムニバス科目内での教員間連携を導入済み。	良
	教育	教務委員会、こども教育学科長	既に科目間連携を導入済み。入門セミナー、キャリアデザインⅠ、学校インターンシップⅠ、フィールドスタディーⅠ、専門演習Ⅰ、Ⅱについて、教育現場学習やボランティア活動など、授業内容、評価等、教員のチームによる科目間連携を進めることができた。	優
	人文	教学委員会	科目間連携・同一科目複数開講の連携を目的として学科にて検討を実施。	良
学科	社会福祉		●DPやCPを踏まえた学科ルーブリックを開発し、3年次実習の実習前後および福祉系ビジネスインターンシップⅢのインターンシップ参加前後で利用している。 ●国家試験課程にいる4年生を対象にポートフォリオを活用している。	可
	教育福祉		学士ルーブリック、保育・教育実習ルーブリックを活用した学修指導及び教職指導の充実を目指している。本年度は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、1年生への指導が徹底できず、全体的に結果の集約ができなかった。今後の課題になっている。	可
	実践心理		学修成果における測定指標・取り組みの検討として、心理学科特有のスキル修得のための少人数教育の取り組みについて、その効果の測定手法を学科FDの中で検討した。	可
	コミュニティ政策		●実践科目ルーブリックを、サービスラーニングプログラムで試験的に運用した。 ●例年、年度末に実施しているケーススタディ/ワークショップの成果報告会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインで実施した。	良
	看護		学修成果の可視化を目指し、現在稼働しているアセスメントツールの取り組み状況を把握した。ルーブリックの結果の分析を継続し、学修成果に結び付けていくのが今後の課題である。	良

*達成度の評価方法は結果目標はS~D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

大学基準	実現目標	成果指標			備考	
		No	種類	成果指標・データ定義		3年後の指標
4. 教育課程・学習成果	⑤カリキュラム・ポリシーやアセスメントポリシーに基づき、学修成果の実情把握と指標の開発によって教育成果を推進する。	4-51	行動	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラムごとの学修成果における測定指標・取組の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 学修成果を包括的に把握する指標や取組みの検討をする(DPやCPを踏まえたルーブリックの開発、ポートフォリオの活用や評価方法の開発など) 	
		4-52	結果	<ul style="list-style-type: none"> ルーブリック、ポートフォリオ等やアセスメント結果を用いたリフレクション・学生指導等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 実施率100%(実施者数/学生数)(維持目標) 	
5. 学生の受け入れ	①入学者数、在籍者数の適切な管理をする。	5-11	結果	<ul style="list-style-type: none"> 入学定員充足率(入学者数/入学定員×100) 	<ul style="list-style-type: none"> 毎年度定める入学定員超過率を遵守する(維持目標) 	<ul style="list-style-type: none"> 文部科学省の定員管理の方針に則り、向こう3年間の定員管理を忠実に履行していく 私立大学等経常費補助金の取扱い並びに大学等の設置等に係る認可基準を踏まえた入学定員充足率とする。
		5-12	結果	<ul style="list-style-type: none"> 収容定員充足率(在籍者数/収容定員×100) 	<ul style="list-style-type: none"> 収容定員充足率100%以上105%未満(維持目標) 	
	5-13	結果	<ul style="list-style-type: none"> 留学生在籍率(留学生/収容定員×100) 留学生及び社会人の定義は経常費補助金特別補助の定義を用いる 	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画等に基づいた留学生、社会人の割合が収容定員の3%以上(大学全体) 		
6. 教員・教員組織	①教育力の向上のために組織的な対応を行う。	6-11	行動	<ul style="list-style-type: none"> 教育内容等の改善を図るためのFDの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートに関するFD、アセスメントに関するFD、事後学習レポートに関するFD、学生の自己の学修成果のリフレクションに関するFD等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 淑徳大学 2019年～2021年FD・SD等計画に基づき、次のFDを実施する(2019.4大学協議会) ※2022年度のFD等の計画は未策定。 学位プログラムごとに行動計画を策定し、実施する。

組織レベル	取組主体		2020年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
学科	栄養		全教員参加の卒業研究評価による総合的学修成果の把握の実施	良
	経営		複数回にわたるオンライン面談と各種テーマに係るアンケート調査の実施により学修成果を含む学生の現状把握に取り組んだ。	良
	観光経営		複数回にわたるオンライン面談と各種テーマに係るアンケート調査の実施により学修成果を含む学生の現状把握に取り組んだ。	良
	こども教育(学科長)		履修カルテをポートフォリオとして活用し、毎学期、すべての学生においてセルフチェックを行ってきた。	良
	表現		「学位に応じた学習成果を測定するための取り組みをさらに充実させる」を2020年度の学科目標に掲げ、卒業研究ルーブリックを使用、学科会で複数回にわたり評価法の厳格化について議論し、FD研修を行った。	優
	歴史		ルーブリックの開発、成果検証の学科FDを実施。	良
学科	社会福祉		ルーブリック(未実施)0% ポートフォリオ100%(117/117)	C
	教育福祉		前期61.3%	B
	実践心理		0% 3年後の目標達成に向けて、4-51に挙げた取り組みを行った。	D
	コミュニティ政策		1%	D
	看護		実習ルーブリック(倫理的側面、看護過程)100%実施。学士ルーブリックは1~3年次生は前学期のみ実施。後学期は3月に実施予定。4年次生は新型コロナの影響により前学期、後学期ともに未実施。	B
	栄養		卒業研究履修者は100%達成	B
	経営		100% 卒論ルーブリックも含め達成できた。	S
	観光経営		100% 卒論ルーブリックも含め達成できた。	S
	こども教育		100%(履修カルテに基づいた個別指導、卒論ルーブリック)	S
	表現		100% 1年次のクラスアワーにて毎年学士ルーブリックを取り上げている。また、コロナ禍であっても、卒業研究ルーブリックを7月にS-Naviにて全4年生に送付し、自身でのリフレクションも可能にした。	S
歴史		100% 学士ルーブリック、学生指導などで対応。	S	
大学	大学アドミッションセンター		1.01%(入学者数1,235名/1,220名×100)	B
学部	総合福祉	学生厚生委員会	97.7%(1760/1800。2021年2月1日現在)	A
	コミュニティ政策	学生厚生委員会	99.7%(409/410。2021年2月1日現在)	A
	看護栄養	学生厚生委員会、各学科、看護学科学修支援委員会、栄養学科学修支援委員会	収容定員充足率は、学部97.8%(704/720)、栄養学科87.2%(279/320)、看護学科106.3%(425/400)であった(在籍者数2021年5月1日時点)。(看護学科)遠隔授業に適応できるような支援プログラムを実施した(栄養学科)学生確保に向けた具体的施策プロジェクトの実施だけでなく、学修支援プログラムを実施し、成績低迷者をフォローした	A
	経営	学生厚生委員会	99.9%(2020年5月1日時点)	A
	教育	学生厚生委員会	100.2%(2020年5月1日時点)	S
	人文	教学委員会	(557/535)×100=104.1% ※在籍者数は2020年5月1日にて算出	S
大学	大学アドミッションセンター		0.64%(留学生:31名/収容定員:4,880名×100)	D
大学	高等教育研究開発センター		2021年3月4日に「成績評価の現状と課題」のFDをオンラインで実施。	可

*達成度の評価方法は結果目標はS~D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

大学基準	実現目標	成果指標			備考	
		No	種類	成果指標・データ定義		3年後の指標
6. 教員・教員組織	①教育力の向上のために組織的な対応を行う。	6-12	行動	<ul style="list-style-type: none"> 教育内容等の改善を図るためのFDの実施 	<ul style="list-style-type: none"> シラバス作成に関するFD、履修モデルの有効性の検証と課題整理に関するFD、カリキュラムポリシーに基づく教育方法及び成績評価の点検評価に関するFD、間接的学修評価と学生の成長変化に関するFD、ICTを用いた双方向授業に関するFD、アセスメントとディプロマ・ポリシーに関するFD等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 淑徳大学2019年～2021年FD・SD等計画に基づき、次のFDを実施する(2019.4大学協議会) ※2022年度のFD等の計画は未策定。 学位プログラムごとに行動計画を策定し、実施する。
		6-13	結果	<ul style="list-style-type: none"> FDの参加率 	<ul style="list-style-type: none"> FD参加率 100% (維持目標) 	<ul style="list-style-type: none"> 欠席時、研修会記録(ビデオ)等を見た上でのレポート提出含む
	②研究成果の教育と社会への還元を推進する。	6-21	結果	<ul style="list-style-type: none"> 担当科目に関わる研究業績等(大学の研究業績管理システムに入力したもの、もしくは大学のホームページに掲載されたもの) 	<ul style="list-style-type: none"> 担当科目に関わる論文又は社会への公表 年2件相当以上 	<p>【備考】研究業績等事例：著書、担当科目の教科書、学術論文、教育実践記録(論文形式のもの)、研究紀要(学部紀要、大学附置機関等の年次報告書)における論文、調査報告書、科研費報告書等、学会発表、翻訳、市民向け講演、公的機関における講演・講義、新聞・テレビ等メディアにおける報道、その他広く社会への還元と位置づけられる事項。またそれらの事実を確認できること</p>
	③外部研究資金の導入により専門教育の充実を図る。	6-31	結果	<ul style="list-style-type: none"> 外部研究資金に関する説明会参加者数参加率 	<ul style="list-style-type: none"> 教員参加率50%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 各学部の2019年度実績をもとに、3年後の指標を設定し、学部自己点検評価委員会が確認を行う。
		6-32	結果	<ul style="list-style-type: none"> 外部研究資金の申請件数 	<ul style="list-style-type: none"> 科研費等申請件数20件以上(学部単位) 	
					<ul style="list-style-type: none"> 科研費等申請件数7件以上(学部単位) 	
					<ul style="list-style-type: none"> 科研費等申請件数5件以上(学部単位) 	
					<ul style="list-style-type: none"> 科研費等申請件数5件以上(学部単位) 	
					<ul style="list-style-type: none"> 科研費等申請件数6件以上(学部単位) 	
					<ul style="list-style-type: none"> 科研費等申請件数15件以上(学部単位) 	
6-33	結果	<ul style="list-style-type: none"> 外部研究資金の獲得件数 	<ul style="list-style-type: none"> 科研費等採択件数10件以上(学部単位) 科研費等採択件数3件以上(学部単位) 科研費等採択件数3件以上(学部単位) 科研費等採択件数2件以上(学部単位) 科研費等採択件数3件以上(学部単位) 科研費等採択件数8件以上(学部単位) 			

組織レベル	取組主体		2020年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
学部	総合福祉	学部教育向上委員会	シラバスFDのみ実施した。	可
	コミュニティ政策	学部教育向上委員会	新型コロナウイルス感染防止のため、実施せず。	※
	看護栄養	学部教育向上委員会	目標に掲げた4つのFDが実施できた。	良
	経営	教育向上委員会	全3回開催した。学部FD 2回実施(ICT関係2回)、全体FD 1回(シラバス作成)。(FD以外に勉強会を2回実施)	優
	教育	教育向上委員会	全5回開催した。学部FD 4回実施(CPに基づく教育方法及び教育評価2回、学士カールブリックの調査結果、退学の背景の要因分析)、全体FD 1回(シラバス作成)。	優
	人文	教育向上委員会	社会状況や教育環境の現状に対応するため、一部の予定を変更して教育内容等の改善を図るためのFDを企画・実施した	優
学部	総合福祉	学部教育向上委員会	100%	S
	コミュニティ政策	学部教育向上委員会	新型コロナウイルス感染防止のため、実施せず。	※
	看護栄養	学部教育向上委員会	参加率は97.4%であった。	A
	経営	教育向上委員会	100%	S
	教育	教育向上委員会	100%	S
	人文	教育向上委員会	100%	S
学部	総合福祉	学部長		
	コミュニティ政策	学部長	21件	A
	看護栄養	学部長	2件以上公表61.5%、1件公表17.9%、近々公表予定17.9%、公表予定なし2.6%	B
	経営	学部長	専任教員18人で54本と業績数が飛躍的に伸びた。しかし業績が突出する教員とそうでない教員に差が生じている。平均的な底上げが必要。	S
	教育	学部長・こども教育学科 学科学科長	概ね実施できている。引き続き、研究成果の公表ができるよう取り組んでいく。	B
	人文	学部長	専任教員の大半が2件以上の論文等の公表を行なった。	A
大学	教育研究支援センター		(8%) コロナのため説明会は実施せず、希望者に資料配付のみ行った。	※
学部	総合福祉	学部	14件	B
	コミュニティ政策	学部	3件	D
	看護栄養	学部長	2021年度科研費応募件数は主任研究者として5件、分担研究者としての申請も含めると計10件の申請があった。	A
	経営	学部	科研費 新規申請3件 うち採択1件(若手研究)。2019年採択済み2件が3カ年目進行中。	B
	教育	学部	0件	D
	人文	学部	3件	B
学部	総合福祉	学部	6件	B
	コミュニティ政策	学部	2件	B
	看護栄養	学部長	2021年度新規採択件数は4件(代表2件、分担2件)であった。	A
	経営	学部	学長裁量の競争的資金(学術研究助成費)の申請件数「淑徳大学学術出版助成費」1件採択	A
	教育	学部	0件 継続採択2件	D
	人文	学部	科研費(代表) 新規採択0件、分担新規採択1件、科研費(代表) 継続5件、科研費(分担) 継続数5件	A

*達成度の評価方法は結果目標はS～D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

大学基準	実現目標	成果指標				備考
		No	種類	成果指標・データ定義	3年後の指標	
6. 教員・教員組織	③外部研究資金の導入により専門教育の充実を図る。	6-34	結果	<ul style="list-style-type: none"> 公的機関、地域団体、企業等からの研究資金を伴う委託研究または共同研究等（受託研究件数＋共同研究件数） 	<ul style="list-style-type: none"> 15件以上（内訳：受託研究件数3件以上・共同研究件数12件以上） 	<ul style="list-style-type: none"> 各学部の2019年度実績をもとに、3年後の指標を設定し、学部自己点検評価委員会が確認を行う。
					<ul style="list-style-type: none"> 10件以上（内訳：受託研究件数5件以上・共同研究件数5件以上） 	
					<ul style="list-style-type: none"> 3件以上（内訳：受託研究件数2件以上・共同研究件数1件以上） 	
					<ul style="list-style-type: none"> 2件以上（内訳：受託研究件数1件以上・共同研究件数1件以上） 	
					<ul style="list-style-type: none"> 4件以上（内訳：受託研究件数2件以上・共同研究件数2件以上） 	
					<ul style="list-style-type: none"> 受託研究件数1件以上・共同研究件数1件以上 	
7. 学生支援	①修学支援を充実する。	7-11	行動	<ul style="list-style-type: none"> 学生の個別状況に応じた修学支援体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 障がいのある学生に対する修学支援体制の確立 	
		7-13	結果		<ul style="list-style-type: none"> 退学・除籍率3%未満 	達成度は以下とする。 Sは3%未満、Aは3～4%未満、Bが4～5%未満、Cが5～6%未満、Dが6%以上

組織レベル	取組主体		2020年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
学部	総合福祉	学部総務	0件	D
	コミュニティ政策	学部総務	4件	D
	看護栄養	学部長	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター(共同研究1件)、日本医療研究開発機構、住友理工株式会社、常総市幸せ長寿課(委託研究3件)	A
	経営	学部	2件【根拠】復興庁visit東北「新しい東北」(受託事業)1件/日本観光研究学会「首里城焼失特別研究」200千円(共同研究)1件	S
	教育	学部	2件 (内訳:受託研究件数1件・共同研究件数1以上)	S
	人文	学部	0件	D
キャンパス	千葉	教務委員会 教学委員会 学生厚生委員会	2020年度の遠隔授業下においては、障がい学生への合理的配慮として授業動画の字幕付与等を行った。また、対面授業では聴覚障がい学生への手話通訳や、肢体不自由学生への教室配慮等を行った。 ノートテイク実行委員会とのニーズ・支援状況確認、外部の要約筆記者・手話通訳手配、点字訳・墨字訳実施、障がい学生用ロッカー貸与	可
	千葉第二	学生厚生委員会(学生支援相談担当者会)	前年度に相談支援体制を再構築し、新体制による障がい学生の支援を実施した。(視野障害があり合理的な配慮が必要な新生入生に関して、学校医、保健室担当者、アドバイザー教員が協働して対応)	良
	埼玉	学習支援センター	学生からのニーズはなかったが、発生した場合に備えて担当者を決め、ニーズに対応できるように準備している	可
	東京	教学委員会	障がいを理由とする差別の解消の推進に関する規程ならびにガイドラインに基づき、修学支援体制を組織している	優
学部	総合福祉	学生厚生委員会、教務委員会、学生相談センター	出席不良学生抽出基準変更や面談方法の多様化によってアドバイザーが学生の状況を確認し出席率向上に向けた助言等を行いやすくなった	優
	コミュニティ政策	学生厚生委員会、教学委員会、学生相談センター	出席不良学生抽出基準変更や面談方法の多様化によってアドバイザーが学生の状況を確認し出席率向上に向けた助言等を行いやすくなった	優
	看護栄養	教務委員会、各学科	(教務)各担当教員に対して、各学生の授業欠席回数を定期的に把握するように依頼した (看護・栄養)成績低迷者(GPA2.0未満)の学生に対する学修支援委員会、アドバイザーによる支援を実施した。また、大学の遠隔授業に適応できるよう学修支援プログラムを計画・実施した。各学年アドバイザー教員間、学科会議での情報共有を行った	良
	経営	学習支援センター	アドバイザー、学生総合相談支援室等の関連部署が連携して欠席者の把握、個別フォローを実施	良
	教育	学習支援センター	毎月の学科会で欠席が多い学生、授業に困難を抱える学生に関する情報を把握した。その情報をもとに、アドバイザーや学生総合相談支援室等の関連部署が連携して学生へのフォローアップを実施。	良
	人文	教学委員会	成績不振者(及び保証人)との面談、授業欠席者への個別対応を実施。 今年度、遠隔授業の実施に伴い、通常期の面談対象者に加え、1年生の対象者は可能な限り保護者を含めた3者面談を実施し、新入生フォローを行った。また授業欠席者のみならず、クラスアワーの時間で全員とリモート面談を実施。	優
	学部	総合福祉	学生厚生委員会、教務委員会、学生相談センター	2.42%(43/1779人)

*達成度の評価方法は結果目標はS~D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

大学基準	実現目標	成果指標			備考		
		No	種類	成果指標・データ定義		3年後の指標	
7. 学生支援	①修学支援を充実する。	7-13	結果	<ul style="list-style-type: none"> 学習の継続に困難を抱える学生（成績不振学生、休学、留年者、退学希望者）の状況把握と対応の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 退学・除籍率3%未満 	達成度は以下とする。 Sは3%未満、Aは3～4%未満、Bが4%～5%未満、Cが5%～6%未満、Dが6%以上	
	②生活支援を充実する。	7-21	行動	<ul style="list-style-type: none"> 学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配慮対策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 心身の悩ごとを抱える学生への相談対応 		
		7-22	結果	<ul style="list-style-type: none"> ハラスメント防止対策 	<ul style="list-style-type: none"> ハラスメント研修参加率100%（維持目標） 	<ul style="list-style-type: none"> 欠席時、研修会記録（ビデオ）等を見た上でのレポート提出含む 	
	③進路支援を充実する。	7-31	行動	<ul style="list-style-type: none"> 進路選択に関わる支援やガイダンスの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 年間実施回数20回以上 		
					<ul style="list-style-type: none"> 年間実施回数 看護学科2回以上、栄養学科10回以上 		
					<ul style="list-style-type: none"> 年間実施回数7回以上 年間実施回数30回以上、他3・4年生全員面談実施 		
		7-32	結果	<ul style="list-style-type: none"> 就職率 	<ul style="list-style-type: none"> (各学科)就職率90%以上（就職者数は学校基本調査を用いる） 「就職者」+「進学者のうち就職している者」/（「卒業者」+「大学院研究科等進学者」+「進学者のうち就職している者」）（維持目標） 	<ul style="list-style-type: none"> 本指標の公表については大学の方針に従う 	
	7-33	結果	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得率・合格率(国家資格含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得率・合格率(現役生)社会福祉士：60%、精神保健福祉士：100%、中学校教諭(社会)：100%、特別支援学校教諭：100% 			
<ul style="list-style-type: none"> 資格取得率・合格率100%（維持目標） 							

組織レベル	取組主体		2020年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
学部	コミュニティ政策	学生厚生委員会、教学委員会、学生相談センター	3.38% (14/414人)	A
	看護栄養	各学科、学生厚生委員会、看護学科学修支援委員会、栄養学科学修委員会	退学者・除籍者 学部1.85% (13/704)、栄養学科2.51% (7/279)、看護学科1.41% (6/425)	S
	経営	学習支援センター	2.73% 学部2.49% (20/804)、経営学科2.73% (12/440)、観光経営学科2.2% (8/364)	S
	教育	学習支援センター	2.43% (11/453)	S
	人文	教学委員会	0.4%【退学者2名】/【在籍者551名】(2021年2月2日現在)	S
キャンパス、学部	千葉	学生厚生委員会、学生相談センター	コロナ禍で感染対策と学生相談の充実のため、メールや電話によるカウンセリング、ソーシャルワークの窓口を順次開設した。さらに、Zoomを使用した成績不振学生に対する面談が開始された。	優
	千葉第二	学生厚生委員会(学生支援相談担当者会)	学校医、保健室担当者、アドバイザー教員、カウンセラーが協働して対応した。COVID-19蔓延化に対し電子メール、オンライン面談を活用した。	良
	埼玉	学生厚生委員会	アドバイザー、学生総合相談支援室等の関連部署が連携し、オンラインを活用しながら学生と個別面談等の対応を行った。(相談件数: 4,411件)	優
	東京	教学委員会	全学生へのアンケート調査を実施。アンケートへの回答のほか、個別対応を実施。体調不良その他健康相談について専用メールアドレスを新規で作成し、メール相談を受付。	優
キャンパス	千葉	各キャンパス ハラスメント防止・対策委員会	年2回実施しているハラスメント防止研修会の参加率100%	S
	千葉第二	ハラスメント防止委員会	参加率100%達成した(休職中・産休中を除く)	A
	埼玉	ハラスメント防止委員会	研修会参加率ならびにアンケート回答率100%	S
	東京	ハラスメント防止委員会	100% 対象となる教職員全員が年2回の研修に参加した。	S
キャンパス	千葉	千葉キャンパスキャリア支援センター、キャリア支援委員会、総合キャリアセンター	24回	良
	千葉第二	看護学科キャリア支援委員会、栄養学科キャリア支援委員会	看護学科では個別就職相談会、千葉東病院交流会、コロナ禍における看護師採用説明会、国試・就活を語る会を実施した。栄養学科では就活セミナー、面談、おしごとセミナー、キャリア国試懇談会などのべ15回以上開催した。	優
	埼玉	キャリア支援センター	5回	良
	東京	キャリア支援委員会	61回(年間ガイダンス回数)/3年生全員面談: 6~7月実施/4年生面談: 9月実施	優
学部	総合福祉	千葉キャンパスキャリア支援センター、キャリア支援委員会、総合キャリアセンター	88.4%	A
	コミュニティ政策	千葉キャンパスキャリア支援センター	81.0%	A
	看護栄養	看護学科キャリア支援委員会、栄養学科キャリア支援委員会	看護学科では公務員対策講座、アドバイザーと連携した個別支援を実施した。看護学科就職率96.9%(卒業生99名中: 就職94名・進学2名・就職を希望しない者2名・受験準備1名) 栄養学科就職率95.8%(卒業生72名中: 就職69名・就職を希望しない者2名)	S
	経営	キャリア支援センター	就職志望者の97%(経営学科97.7%・観光経営学科96.3%)、その他進学2名、各種学校1名。	S
	教育	キャリア支援センター、教員・保育士養成支援センター	96%(96/99名) 小学校教諭27名、幼稚園教諭24名、保育士21名、公務員保育士10名、認定こども園に4名	S
	人文	キャリア支援委員会	卒業者の74.2%、就職希望者の97.2%(2021.4.1現在)	S
学科	社会福祉		社会福祉士47%(目標60%) 精神保健福祉士70%(目標100%) 中学校教諭(社会科)33.3%(目標100%) 特別支援学校教諭40%(目標100%)	D
	教育福祉			

*達成度の評価方法は結果目標はS~D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

大学基準	実現目標	成果指標			備考	
		No	種類	成果指標・データ定義		3年後の指標
7. 学生支援	③進路支援を充実する。	7-33	結果	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得率・合格率(国家資格含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得率・合格率 該当なし。 資格取得率・合格率 該当なし。ただし、公務員の合格率について卒業生の10%を目標とする。(維持目標) 国家試験合格率(看護師)100%(保健師)100% 管理栄養士国家試験合格率95%程度以上(管理栄養士養成校平均合格率以上) フードスペシャリスト合格率90%程度以上(全国平均合格率以上) 資格取得率・合格率70%(維持目標) 資格取得率・合格率70%(維持目標) 資格取得率95%・採用試験等合格率70%(維持目標) 該当なし 資格取得率・合格率100%(維持目標) 	
	④正課外活動に対する支援を充実する。	7-41	行動	<ul style="list-style-type: none"> 部活・サークル活動支援 	<ul style="list-style-type: none"> 支援の充実 	
8. 教育研究等環境	①防災及びバリアフリー等への対応を推進し、安全で快適なキャンパス環境の整備を行う。	8-11	行動	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生時の安否確認方法(学生、教職員)の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生時の安否確認方法(学生、教職員)の検討 	
		8-12	結果	<ul style="list-style-type: none"> 防災や災害時対応の意識向上のための研修実施 	<ul style="list-style-type: none"> 防災意識や災害時対応に関する研修実施(年1回以上) 	
		8-13	結果	<ul style="list-style-type: none"> 災害備蓄品の大学基準設定と備蓄率 	<ul style="list-style-type: none"> 各市町村が定める備蓄率100%(維持目標) 	

組織レベル	取組主体		2020年度		
			指標(結果)・取組	達成度*	
学科	実践心理		指標・取組に関しては該当なし。		D
	コミュニティ政策		指標・取組に関しては該当なし。ただし、公務員合格について、2020年度は卒業生中9%(8名/92名)		A
	看護学科、看護学科キャリア支援委員会、看護学科学修支援委員会		各学年ごとにGoogleClassroomを用いて学修支援プログラムを実施した。4年生に対し学外・学内講座、成績別の講座開講、模擬試験を実施した。看護師国家試験合格率95.96%、保健師国家試験合格率94.1%		A
	栄養学科、栄養学科キャリア支援委員会、栄養学科学修支援委員会		低学年から学修支援プログラムを実施した。管理栄養士国家試験合格率89.2%、フードスペシャリスト合格率97.1%		A
	経営		92.5% 根拠：ファイナンシャル・プランニング技能検定試験3級4名合格/4名受験(100%)、MOSWord63名合格/67名受験(94%)、MOS ExcelExpert 5名合格/8名受験(62.5%)、秘書検定準1級3名合格/7名受験(42.9%)、MOS Excel 61名合格/62名受験(98.4%)、MOS Power Point12名合格/12名受験(100%)		S
	観光経営		70% 根拠：アシスタントウェディングプランナー検定(AWP検定)21名合格/27名受験(77%)、国内旅行業務取扱管理者12名合格/26名受験(46.1%)、総合旅行業務取扱管理者4名合格/7名受験(57.1%)、世界遺産検定3級3名合格/3名受験(100%)		S
	こども教育(学科長)		99%(97/98名) 小学校教諭28名、幼稚園教諭23名、保育士32名(公務員保育士10名を含む)、認定こども園に3名		S
	表現		該当なし		※
	歴史		100% 資格に必要な単位を取得した学生。		S
キャンパス	千葉	学生厚生委員会 正課外教育委員会	感染対策と学生生活の充実のため「活動計画書」等の作成やオンライン説明会実施。会計報告資料作成・相談会等で学生の状況確認		優
	千葉第二	学生厚生委員会	正課外活動は、感染防止対策のため、自粛		※
	埼玉	学生厚生委員会	活動申請等のオンライン化、オンライン座談会、オンライン淑徳祭実施		優
	東京	教学委員会	今年度はコロナ禍の影響により活動実績なし。		※
キャンパス	千葉	総務部	職員については緊急連絡網を整備済みで、6月に電話連絡訓練を実施した。学生への緊急連絡についてはS-Navi(個別の場合は電話)を使用するが、2020年度の緊急連絡の運用訓練は未実施。		可
	千葉第二	キャンパス安全対策本部 (事務部長)	学生は、S-Naviを利用した確認を行った。教職員は、緊急連絡網を整備した。		良
	埼玉	キャンパス安全対策実施本部	緊急連絡網を整備しており、年に1度の点検を実施している。防災管理(危機管理)マニュアルを整備している。		優
	東京	総務	淑徳大学大学安全対策本部(地震緊急対策本部)設置・運営マニュアルから、災害発生時の学生・教職員の安否確認方法を定めた。		優
キャンパス	千葉	総務部	1回 10/29に、千葉キャンパス教職員を対象に「消防器具および避難機器の使用を体験する」旨の訓練を行った。		A
	千葉第二	キャンパス安全対策本部 (事務部長)	2020年5月に、教職員を対象とした緊急連絡網の訓練を実施。2020年7月に、教職員を対象とした防災訓練を実施。但し、新型コロナウイルスの影響で、学生を対象とした防災訓練は未実施。		B
	埼玉	キャンパス安全対策実施本部	1回 ビデオ教材(消防庁)による視聴を全専任教職員対象に実施。本来は、実地訓練を必要とするが、本年度はコロナ禍にあって、学生を動員しての訓練は実施できなかった。		A
	東京	総務	0回 新型コロナ肺炎に伴う入校規制により実施不可		※
キャンパス	千葉	総務部	3.3% 1月13日時点で684食分の備蓄食を確保している。但し、大学基準設定の有無については未確認のため、後日回答いたします。(注) 備蓄率は、確保数/(5月1日現在の学部生数+大学院生数+教員数)×3食×3日で算出。		D
	千葉第二	キャンパス安全対策本部 (事務部長)	災害備蓄品の大学(キャンパス)基準を作成し、備蓄率も基準を満たしている。		A

* 達成度の評価方法は結果目標はS~D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

大学基準	実現目標	成果指標			備考		
		No	種類	成果指標・データ定義		3年後の指標	
8. 教育研究等環境	①防災及びバリアフリー等への対応を推進し、安全で快適なキャンパス環境の整備を行う。	8-13	結果	<ul style="list-style-type: none"> 災害備蓄品の大学基準設定と備蓄率 	<ul style="list-style-type: none"> 各市町村が定める備蓄率100%（維持目標） 		
	②情報通信技術（ICTの環境）の整備、ネットワーク機器等の充実に努めるとともに、情報倫理の確立に取り組む。	8-21	結果	<ul style="list-style-type: none"> 学生に対する情報倫理教育の実施回数 	<ul style="list-style-type: none"> 新年度オリエンテーション（SNS使用）及び情報関連正課授業における情報倫理教育の実施（1年生各1回以上） 		
	③学生の自主学習や主体的な学びを促進するための取組みを充実する。	8-31	結果	<ul style="list-style-type: none"> ラーニングコモズの利用学修等行動調査設問（1・3年向け）Q9・（2・4年向け）Q7で利用経験（月1、2回～毎日）がある学生の割合 	<ul style="list-style-type: none"> ラーニングコモズ（フリースペース）の利用率90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 東京キャンパスはフリースペースとする。 	
		8-32		<ul style="list-style-type: none"> WEB学習システムの利用（学修等行動調査設問を活用）（1・3年向け）Q10・（2・4年向け）Q9「WEB学習システムの経験」で日常的にしている及びときどきしているの割合の合計（学部別） 	<ul style="list-style-type: none"> 利用率45%以上 		
	④淑徳大学研究倫理規程の趣旨に則って研究倫理教育を推進し、個別審査を実施する。	8-41	結果	<ul style="list-style-type: none"> 公的研究費に係るコンプライアンス研修実施、参加率 	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス研修：年1回以上、教員参加率100%（維持目標） 		
		8-42	結果	<ul style="list-style-type: none"> 教員に対する研究倫理教育の実施、参加率 	<ul style="list-style-type: none"> 研究倫理教育（教員）：年1回以上、参加率100%（維持目標） 	<ul style="list-style-type: none"> 教員参加率：各回の説明会参加者数（欠席時の課題提出等含む）／各回の説明会ごとの専任教員数 	
	9. 社会連携・社会貢献	①公的機関、企業等との連携により社会貢献活動を推進する。	9-11	結果	<ul style="list-style-type: none"> 協定に基づく公的機関、企業等との連携による社会貢献の事業数 	<ul style="list-style-type: none"> 事業数5件 	<ul style="list-style-type: none"> 一般的なボランティアも含む
			9-12			<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動実績を1件以上上げる 	
<ul style="list-style-type: none"> 事業数5件 							
<ul style="list-style-type: none"> 事業数7件（大項目）小項目では約29件 							
9-21		行動	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民や卒業生に向けた公開講座、リカレント講座の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 公開講座、リカレント講座の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開も含む 		

組織レベル	取組主体		2020年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
キャンパス	埼玉	キャンパス安全対策実施本部	70%程度、防災上における3日間の食糧(推奨)は確保できていない。	B
	東京	総務	100% 東京消防庁消防計画書に定める災害備蓄品を確保した。また、淑徳大学大学安全対策本部(地震緊急対策本部)設置・運営マニュアルから、キャンパス統一の災害備蓄品リストを定めた。	S
学部	総合福祉	教務委員会 学生厚生委員会 教学委員会	主に1年生は、新年度オリエンテーション(オンライン)および情必修科目「情報処理法」で、情報セキュリティと情報倫理について、全授業回のうち1回分学んでいる。	S
	コミュニティ政策	教学委員会 学生厚生委員会	主に1年生は、新年度オリエンテーション(オンライン)および情必修科目「情報処理法」で、情報セキュリティと情報倫理について、全授業回のうち2回分学んでいる。	S
	看護栄養	千葉第二ネット委員会、 (教務委員会)	新年度オリエンテーションでSNS使用に関する説明を実施した。情報関連成果授業における情報倫理教育は未実施であったが、学内PCおよびOSの更新と遠隔授業における情報を適切に取り扱うことの周知を行った	A
	経営	経営学科 観光経営学科	情報倫理教育の実施回数は全教員が全ての演習で実施(100%達成)。新年度ならびに新入生の情報倫理に関する周知は徹底して初回に実施している。	S
	教育	こども教育学科	SNSへの写真掲載に関する注意など、入門セミナーで1回実施している。	A
	人文	教学委員会	2回。情報系授業および正課外クラスアワーにて実施。S-Navi掲示配信にて、アカウント情報共有禁止、授業動画の録画やSNSでの公開禁止等、遠隔授業の受講ルールを学生へ周知徹底。	S
キャンパス	千葉	図書館	入構禁止等のコロナの影響により施設の利用停止もしている。	※
	千葉第二	図書室運営委員会	利用率34.9% 入構禁止等のコロナの影響により利用率が低下した。	D
	埼玉	図書館運営委員会	学修等行動調査結果に基づく利用率:34.4%。本年度コロナウイルス感染対策の観点から、ラーニング commons の利用停止措置に伴う。	※
	東京	教学委員会	16.9% 安全対策実施本部による施設開放フェーズが3を下回らず、通年で原則入構禁止となったため。	※
キャンパス	千葉	各キャンパス該当委員会	入構禁止等のコロナの影響により施設の利用停止もしている。	※
	千葉第二	看護学科、栄養学科 看護学修支援委員会、 栄養学修支援委員会	WEB学習システム利用は看護学科では利用0%だが、独自システム「ナーシングスキル」、「国家試験対策webシステム」を活用推進した。栄養学科はe-learning利用65.7%。授業課題や試験で利用した。遠隔授業により全体的にGoogleClassroom利用が活性化した	A
	埼玉	教務委員会	34.1%	B
	東京	教学委員会	6.5% 理由不明。東京キャンパスに該当の取組はないのではないか。	※
大学	教育研究支援センター		1回 100%	S
大学	教育研究支援センター		1回 100%	S
大学	大学地域連携センター		受託事業 5件(千葉市2件、SM 2件、酒々井町1件) 連携事業 3件(キリンビバレッジ株、NTT東日本、酒々井町)	S
キャンパス	千葉	ボランティアセンター	●一般ボランティア活動参加者 37名(2019年度は456名) ●災害支援ボランティア活動参加者20名(2019年度は123名)	D
	千葉第二	地域連携委員会	●1件の要請に参加対応した(参加率100%) ●松ヶ丘中学校、千葉南高校を対象に図書館開放ウィークを開催し、千葉南高校との高大連携に至った。 ●企業等との社会貢献は実施できなかった。	B
	埼玉	広報・地域連携委員会	●2件(小項目、委員会把握当初プロジェクト)※コロナ禍で多くが中止 ●他教育学部で4件、ボランティア・プロジェクト	D
	東京	ボランティアセンター	新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い該当事業未実施	※
大学	大学地域連携センター 大学地域支援ボランティアセンター 地域連携委員会(学部)		新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い該当事業未実施 ※看護栄養学部 ボランティア講座の一部を公開講座として公開した。 大学院公開講座を2回開催した。	※

*達成度の評価方法は結果目標はS~D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

大学基準	実現目標	成果指標				備考
		No	種類	成果指標・データ定義	3年後の指標	
9. 社会連携・社会貢献	②社会人履修証明プログラムや公開講座等を全キャンパスで開講する。	9-22	結果	• 社会人履修証明プログラムの履修証明書交付人数(大学単位)	• 交付人数10枚以上/年(大学全体)	
	③外国人留学生への支援体制を充実する。	9-31	行動	• 支援プログラムの整備・充実	• 支援プログラムの確立	
10. 大学運営・財務	①大学の理念・目的及びそれに基づく将来を見据えた計画等を実現するために必要な財務基盤・予算配分を確立する。	10-11	結果	• 財務比率(基本金組入前当年度収支差額比率、教育研究費比率、管理経費比率、人件費比率)	• 基本金組入前前年度収支差額比率5%以上の安定的確保(教育研究費比率30%以上、管理経費比率10%、人件費比率50%未満)	達成度は以下とする。Sが5%以上、Aが3%以上~5%未満、Bが1%以上~3%未満、Cが0%以上~1%未満、Dが0%未満
	②大学運営を適切かつ効果的に行うために、事務職員及び教員の意欲と資質の向上を図る。	10-21	行動	• 目的別SDの開催数	• SD開催数年2回以上	• 大学特別研修会を除く
		10-22	結果	• SD教職員参加率	• 参加率100%(維持目標)	

組織レベル	取組主体		2020年度	
			指標(結果)・取組	達成度*
大学	大学地域連携センター		新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い該当事業未実施	※
大学 学部	大学国際交流センター 学生厚生委員会		新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い該当事業未実施	※
大学 学部	大学事務部 キャンパス事務局		基本金組入前当年度収支差額比率：7.4% 教育研究経費比率：36.9% 管理経費比率：12.0% 人件費比率：43.7%	S
キャンパス	千葉	教育向上委員会	1回 テーマ「ICTを活用した主体的学びの促進」3/18実施	可
	千葉第二	事務部長	2021年3月18日にSD研修会を開催	可
	埼玉	総務	2回 ①2020年12月16日 ②2021年3月9日	優
	東京	学部	1回 目標は年間2回だったが、開催は1回だった。	可
キャンパス	千葉	教育向上委員会	100%	S
	千葉第二	事務部長	2021年3月18日にSD研修会を開催し、欠席者には、後日動画視聴により参加率100%	S
	埼玉	総務	第1回・第2回ともに100%	S
	東京	学部	100% 対象となる教職員全員が参加した。(予定)	S

*達成度の評価方法は結果目標はS～D、行動目標は優・良・可・不可。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施できていない場合は※とする。

外部評価

淑徳大学は、自己点検・評価の内容及び活動に関する事項について、外部評価委員（（１）教育機関の教職員、（２）地方公共団体、地域団体あるいは地元産業界等の関係者、（３）その他の有識者）数名で構成された外部評価委員会による外部評価を毎年度実施しています。

2020年度の外部評価委員会 報告

I. 日時及び場所

日 時：2021年2月13日（土） 14時00分～15時50分

場 所：Zoom（大学各キャンパス及び外部評価委員指定の場所）

II. 2019年度外部評価委員会 議題及び報告内容

（１）2019年度外部評価委員会の意見への対応について

（２）3つの方針に照らした取組（教育方法及び教育評価）の適切性について

- ・本学の3つの方針の策定と構成
- ・3つの方針の点検評価
- ・2020年度の新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う取組事例
- ・遠隔授業の良さやメリットについて
- ・感染終息後のオンライン授業と対面授業の在り方について
- ・オンライン教育の今後について
- ・学生のオンライン教育を受ける環境について

（３）3つの方針に照らした取組（入学者選抜、その他）の適切性について

- ・アドミッションポリシーの受け入れの方針の概要（評価方法について）
- ・オープンキャンパスの実施方法について
- ・各入試種別の受験生の割合について

III. 外部評価委員による講評

報告に基づき、外部評価委員会による講評は「大学のカリキュラムポリシーに基づく教育方法及び教育評価について、シラバスの取組が評価でき、全体と通しての評価点は「5非常に評価できる」とする。」でした。なお、講評で出された他の意見に基づき工程表を作成し、2021年度に改善を行います。

- ・建学の精神（利他共生）と各学部取組について
- ・大学のハイブリッド型授業や協同学習などの取組み事例の情報発信について
- ・一部の学部で明示している教育方法や教育評価に伴う成果指標と全学部への拡大について
- ・対面授業におけるオンライン授業の知見の活用について
- ・成果指標の看護師国家試験の合格率とアウトカム指標について

以上